

寺族会報

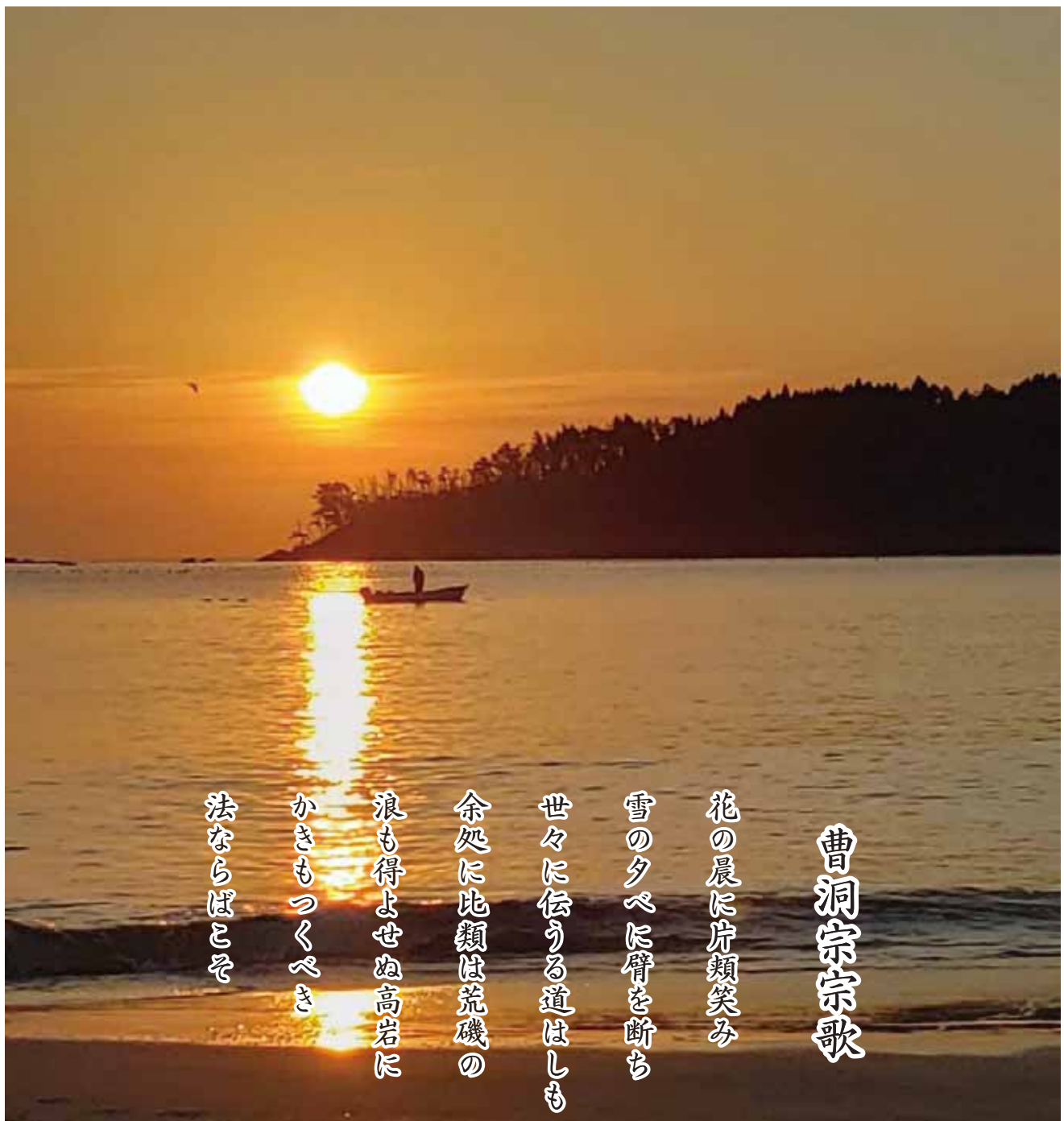
第 38 号

発行 令和5年12月

発行者 曹洞宗宮城県宗務所寺族会
仙台市泉区市名坂字檜町169-4

曹洞宗宮城県宗務所内

電話 022-218-3801



曹洞宗宗歌

花の晨に片頬笑み
雪の夕べに臂を断ち
世々に伝うる道はしも
余処に比類は荒磯の
浪も得よせぬ高岩に
かきもつくべき
法ならばこそ

ご挨拶

曹洞宗宮城県宗務所寺族会

会長 須田 祐子



吹く風の冷たさを感じる季節になりましたが、寺族会員の皆様におかれましては、日々ご住職様と車の両輪のごとお寺を護持され一方で檀家さんとの対応、境内清掃、事務整理、子育て等々多岐に渡り、ご多忙な事と拝察致します。

また日頃より宗務所寺族会にご協力賜りまして心より感謝申し上げます。

五月九日の総会におきまして会長を拝命致しました気仙沼市興福寺寺族須田祐子と申します。浅学非才の身ではございますが、宗務所長様、教化主事様はじめ各主事様、職員の皆様のご指導のもと、事務局、各理事様、寺族会員の皆様のご協力を頂きながら、精一杯努めさせていただきますので宜しくお願い申し上げます。

寺族会報三十八号の作成にあたり、九十三才の母が大事に綴っていた会報を紐といてみますと、宮城県寺族会結制

大会が昭和五十八年八月二十八日（於林香院）。宗務所長小林大隆老師、寺族会長木村登美子様。パンフレット表紙に祝と書いてあり、寺族会報第一号は昭和六十一年十一月一日の発行でした。

四十年前に寺族会を結制してくださったお陰で、現在当たり前のように行っている総会、研修、研鑽の場を頂き、会員同士の親睦も深められているのだと感謝の念に堪えません。これまで歴代会長様、

会員の皆様方が繋いでこられた寺族会を思う時『受け継ぎきたりて有難や』という一節を思い出し、皆様の想いを大切に受け継いで次の世代へバトンをしっかりと渡しせねば

と身の引き締まる思いです。コロナ感染状況も落ち着いてきましたのでお集まりいただいていたの行事を考えておりますのでその際には多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

来たる令和六年は「寺族会設立四十周年」「大本山總持寺太祖瑩山禅師七〇〇回大遠忌」「東北管区寺族研修会」がございます。この点につきましてもご理解いただきたいと存じます。

最後に「共に学び。支え合。笑顔あふれる寺族会ノ」を目標に力を注いでまいりますので、よろしくお力添えをいただきますようお願い申し上げます。 合掌

挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

伊藤 守弘



体露金風、千山過熟して地に帰る時節。宮城県宗務所寺族会の皆様方におかれましては、常々ご協力をいただいておりますこと、衷心より感謝申し上げます。

さて、令和六年は、太祖瑩山禅師様七百回大遠忌をお迎えになり、本年は、その機運を高めんが為、予修法要が修

行されて参りました。

私も本年六月二十一日秋田市で行われました、東北管区の予修法要に参加して参りました。東北管区内寺院檀信徒で約四百人の参列のもと、大本山永平寺の南澤道人禅師様が大導師を務められました。

ご挨拶の中で大遠忌のテーマ「相承」について「相承とはお釈迦様から代々の祖師方が身をもって行じ、心をもって伝え続けられた正しいみ教えを、受け継いでゆくことを意味します」更に「自分のため

だけでなく、社会と共に歩み、相手の幸せを自分の喜びとすることが出来るように努めてまいりましょう」述べられておりました。

本年の管長様の布教方針は、当に四攝法の同事であります。分かち合い、支え合い、思いを重ね合って、人と人の繋がりを深めて行くことは、「相承」と一にすることではないでしょうか。

来年は五十年に一度の難値難遇の勝縁であります。七百年の歴史を超えて今に至るご恩に報いつつ、正伝のみ教えを将来にお繋ぎ申し上げる、その一人とならんことを念じ、親しく信心の誠をお捧げ致し

たく存じます。

結びに社会状況が厳しくなることにより、ご寺族様方の役割も益々大きくなるものと存じます。今後とも、宮城県宗務所へのお力添えをお願い申し上げます。合掌



「人権と災害」

副所長兼人権主事 熊谷晴生

今夏の猛暑は身体に堪えまじた。東京では熱帯夜が連続五十七日と過去最多記録だったそうです。

グテレス国連事務総長の談話で地球は温暖化から既に沸騰化にある状態だと警鐘をならしていました。このままでは地球全体の生態系はもちろん環境へも大きなダメージとなることか予想できます。

近年各地に於いて今までの常識では考えられない大型台風や線状降水帯による大規模災害が頻発し自然災害の脅威を目の当たりにしています。もはや自分が住まう地域は大丈夫とはいきり得る時代が来ています。加えて地震も至る箇所では揺れを感じ地震調査員によると宮城県沖地震は平均三十八年間隔で発生しており更に南海トラフ地震、首都直下型地震が三十年以内に起こる確率は七割から八割とされている。

これらを踏まえ宗門ではSD

Gsを推奨実践すると共に日頃から防災減災に努め寺院の災害支援と平時の備えと題して人権災害学習を進めています。

もしも甚大な災害が発生すれば学校や公民館など指定避難所へ駆け込む被災者、特別な配慮が必要とされる高齢者、妊産婦、障害者の方々などは福祉避難所へ身を寄せます。

内閣府の発表によると全国にある避難所の三割が風水被害による浸水想定域に立地していることが明らかになった。よって不足する避難所を補い確保するため宗教施設を開放利用することに期待が寄せられている。寺は地域の中核であり公益性を考えれば至極当然と言えます。平時から町内会、消防署や社会福祉協議会との連携、避難訓練が有効な手立てとなるのではないのでしょうか。我々は行政、民間機関と輪を広げ共に命を支え合う意識が大切となるのではなからうか。

正に同事行の実践であります。

「教化」とは

教化主事 三宅俊乗

昨年の十二月に宮城県宗務所の教化主事を拝命して以来、早一年が過ぎようとしております。所内職員の皆様のご助力、さらには管内御寺院様のご協力により、本年度の教化関係事業をここまで無事に終了することができました。また寺族会の皆様には常日頃より何かとご尽力を賜り感謝申し上げます。

さて、「教化」という字を紐解くと、元来教育の意味で生まれた中国由来の単語であり、江戸時代に教育という単語が生まれるまで、日本では「教化」は「教育」の意味を持っていました。仏教では「教導化益」の略称で、徳をもって人々を正しく（善行）に導くことを意味し、さらにその善行により人々を安寧に導くことを意味します。さらに「布教」とは、教化を行う事、教えを広くいき渡らせることである。ほぼ同義として使用しています。

曹洞宗では、毎年管長告諭に基つき、布教教化方針が示されます。曹洞宗の布教教化は、一仏両祖のみ教えを実践する中で、

信仰の生活から生まれる深い喜びと安らぎを願い、その実践を目指すものです。本年度は管長告諭の「世界中の人々が誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、皆ともに菩薩行を進めて参りましょう」とのお言葉を受け、これまで推進してきた「禅の実践」「一仏両祖への帰依」「菩薩行の実践」と共に、「菩薩行の実践」としてのSDGsへの取り組みを推進する事とあります。

今期の宗務所の教化方針としては、二大方針があります。管内御寺院様はもとより檀信徒の方にも閲覧頂けるよう、検討委員を設置しホームページの内容充実と一般の方への布教教化の拡大の為、坐禅を中心とした仏教講座、カルチャー講座の開設であります。いずれの方針も寺族会会員様のご助力なくしては実現できないものであります。寺族会会員皆様におかれましてはこの布教教化方針を十分にご理解いただき、今後もご協力賜りますようお願い申し上げます。

息子の得度式を終えて

庶務主事 水澤 智孝

一昨年、私がミヤギテレビさんの取材を受けたご縁で、得度式の取材オフアールがありました。テレビ局には息子が了解すればOKですと伝え、一ヶ月ほど返事を待って頂きました。その間、息子は小学四年生ながら考え葛藤し、取材を受ける決意をしてくれました。

令和五年七月、延べ四日で十二時間以上にわたり取材を受けましたが、伊藤守弘所長老師にもご出演頂き、息子へ有り難い言葉を頂戴致しました。心から感謝申し上げます。

得度式を終え、取材のテレビ放送を見ていたら、取材中の学校からの帰り道的一幕で息子の本心を知ることが出来ました。インタビューで「いつ頃からお坊さんになること

を決めたの？」息子は「幼稚園の年少の頃かな」と。「どうしてなろうと思ったの？」息子は「かっこいい、やりたいな、継ぐことしか考えてない」と。外堀を埋めて、丸め込んだつもりはなかったが、お寺を継ぐということをわずか十歳でそんなふうにしていてくれたことに感涙しました。これからも息子との信頼関係を大切にし、大した背中ではないけれどしっかりと見せて、私も師僧として尚一層精進して参る所存でございます。



県梅花流の展望

梅花主事 清水 大伸

平成三十年から梅花主事を拝命し間もなく六年を迎えます。この間、コロナ禍で梅花事業を開催することが出来ず、忸怩たる思いもありましたが、今年度からほぼコロナ禍以前同様に事業を開催することが出来、担当主事として少し安堵しております。

しかしながら、コロナ禍で各梅花講も活動を停止せざるを得ず、そのまま休講や解散に至った講も多数あります。

先般開催された四年ぶりの県大会でさえ、ついに参加者が一〇〇〇人を切りました。コロナ禍以前から危惧されている講員減少に拍車がかかったことは言うまでもありません。このような現状でも全国的にみれば宮城県の梅花流はまだまだ活発な方ではあります。

今後の展望としましては従来の事業の内容、規模を縮小しながらも継続しつつ、講員さんの為に企画して参ります。

講員さんは女性の方が多いので、詠範が一生懸命な梅花講は講員さんが特に多い印象が見受けられます。男性の師範ではどうしても足りない部分を、同性の詠範でしか補えないところが多々ございますので、詠範はなくてはならない存在であると強く感じます。

次年度の梅花流指導者養成所第二十三期の募集を間もなくご案内致します。少しでも梅花流に興味がありましたら、ぜひ養成所にお申込み頂きます。詠範として宮城の梅花流のお仲間になっていただけたら幸いです。

令和四年度第二回学習会

宗務所前庶務主事 佐藤透光師
「寺族規程」と「寺族年金」について令和五年二月十六日
宗務所において「寺族規程」と
「寺族年金」について

講師 宗務所前庶務主事

佐藤透光師

第二回学習会

「寺族規程と寺族年金について」

第三教区 慈雲寺寺族 三峯 明 美



今回の学習会も、前回同様、リモートでの受講と理事のみ対面での受講の形式で行われました。講師に大満寺ご住職佐藤透光老師をお迎えし、私たち寺族にとって最も基本となる「寺族規程と寺族年金について」をテーマに、分かりやすく丁寧に説明していただきました。

「寺族」とは、寺院に存在して寺族安名を親授し、寺族簿に登録された者と定義され、寺族になると住職に協力して寺門の興隆や檀信徒の教化等に努めなければならないこと

を再確認しました。

さらに寺族が取得しておきたい資格に「准教師」があります。これは、寺族通信教育（レポート提出）と研修会（スクーリング）を受講し、申請することで得られる資格です。私も、以前、寺族に必要な多くのことを学び、寺族としての責務と自覚しました。また、スクーリングでは、全国から集まった寺族の方々と交流を深め、悩みを話したりアドバイスを受けたたりして仲間意識を高めました。准教師になると万が一の時に特定代務者として従事することができ、家族や寺族自身が保護されるこのことです。

寺族年金については、四つの条件（①前住職の配偶者②

准教師③六十五歳以上④寡婦）を満たした上で、申請することにより給付されるそうです。寺族の生活が少しでも保障されるのはありがたいことです。

今回の学習会で、寺族規程を自分のこととして再確認することができました。お寺があつての寺族です。これから寺族としての役割を自覚し、お寺の興隆や檀家の方々のために日々精進していきたいと思っています。

合掌



気持ちを新たに

第二十二教区 実相寺寺族 柴田周子



令和五年二月十六日、第二回学習会が宗務所で行なわれました。コロナ感染症対策の為、私はリモートで拝聴させて頂きました。

佐藤透光老師が講師となり、寺族規程と寺族年金、褒賞についてお話し下さり、改めて寺族規程に目を通す機会を得られました。

老師がおっしゃっていたように私もマニュアルを隅々まで目を通すことなく操作しており、今回の寺族規程についても目を通さなくても、生き字引である家族から聞いたりすることで学んでおりました。

その為、私自身が勝手に認識していた「寺族」＝「住職・副住職の家族ひとくくり」と、老師様がおっしゃった曹洞宗

における寺族が「曹洞宗本庁に登録された者」のことを指していること改めて知りまして、寺族として着用している絡子についても、緑色の絡子だと思っておりましたが、青黒色で達磨大師様がつけていた絡子の色であると初めて知りました。

私自身、寺族安名親授式も寺族通信教育も終えておりま



すが、准教師の資格を持つことの意味、寺院に在住していることが万が一の時、保護の対象になること、色々と勉強させて頂きました。

本来、寺族名簿に目を通せば寺族規程は記載されているのに、このような機会がないと目を通すことがなかったと反省しております。

講話の中で老師様が、お寺は寺族さんがいないとうまく回らない、寺族さんあつての寺院だとおっしゃり、責任の重さをひしひしと感じております。

また、私たちの日常に自然

に溶け込んでいるナッジ理論についてもお話し下さり興味がわきました。講話を聴いてから、このナッジ理論をうまく檀信徒の教化に生かしていかないかと考えております。まだ具体的なアイディアは浮かびませんが、*メンタリコ*ナを経て変化しつつある寺院と社会の係性を変えていく可能性をナッジ理論を活用することで得られるのではないかと考えます。まだまだ若輩者ですが自分なりに微力ながら住職と協力し合い、今後も寺院の維持・興隆に努めてまいります。

合掌



宮城県宗務所寺族会総会

並びに寺族宗務所集会・研修会

令和五年五月九日

― 錦ヶ丘アーリー迎賓館 ―

総会に参加して

第十九教区 鳳仙寺寺族 内山 仁 省



令和五年度寺族会総会が五月九日錦ヶ丘アーリー迎賓館にて開催されました。コロナ禍での総会中止や、リモートでの開催などを経ての通常開催でした。一教区三名の出席と、人数制限はあったものの寺族の皆さんと顔をあわせての総会と研修会は、本当に有

意義なものとなりました。会場においては、初めての場所であり事務局の方の事前の打ち合わせや準備など大変だったことと思ひ感謝しかありません。昼食はイタリアンのメニューで大変皆さん喜ばれていました。又、五・六人のテーブル席で会食であり、なかなか雰囲気の中ざくばらんに情報交換などが出来て、一時間があつという間でした。従来の一泊二日の総会よりも



日帰りということで参加しやすかったと、人数制限があったことを残念に思ったという感想も聞かれました。次年度



― 錦ヶ丘アーリー迎賓館 ―

は会場の選定や準備など難しい課題はあるとは思いますが多くの方が参加できるような会になればと願っております。

合掌



研 修 会

ともに生きるセクシュアルマイノリティ
～LGBTの枠組みをこえて～

講師 曹洞宗総合研究センター
秋 央 文 師

ともに生きる

第十三教区 照源寺寺族 三宅 仁子



コロナ禍後、人数制限の中開催された令和五年度寺族総会の研修会テーマは、「ともに生きるセクシュアルマイノリティ」でした。講師に曹洞宗総合研究センター委託研究員の秋央文先生をお迎えし、ご講話を頂戴致しました。

セクシュアルマイノリティ→性的少数者（同性に恋愛感情を持つ人や、自分の性に違和感のある人などのことをいう）。LGBT。L→レズビアン（女性同性愛者）G→ゲイ（男性同性愛者）B→バイセクシュアル（両性愛者）T→トランスジェンダー（心と体の性が異なる人）これら表題にある言葉もメディアではよく耳にしておりましたが、他人事のように考えておりました。「セクシュアルマイノ



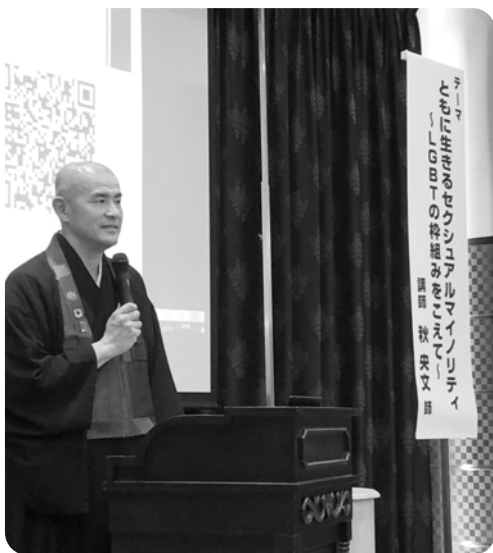
リティの方が相談に「これだったら」という先生の問いかけで、初めて現実にあり得ない事ではないと感じました。

心の問題を勉強しているうちに「マイノリティ」にうちあたられたという先生。マイノリティな方々は、セクシュアルだけでなく、民族、宗教、性別、障害等、様々な要素によって形成される。更に社会的少数者として

弱い立場にある為、偏見や差別を受けやすく、生きづらさを感じることが多いとのことでした。現代は多様性の社会と言われております。人それぞれ抱えている問題も多岐にわたっております。一定のパターンを知っているかどうかが受容の深度を決定し、この人ならわかってくれると思われる為の知識や技術が重要である。と先生は仰いました。

寺院にあって、微力ではございますが、訪れる方が安心して話ができる。そんな存在になれるよう、少しずつ精進して参りたいと存じます。

「ともに生きる」ということを考えながら。 合掌



雑 感

第十二教区 龍澤寺寺族 山 脇 糸 美



宗務所より
寺族表彰を受
け、「ああ！
私も表彰を戴
く年令になっ
たのかあ」と

複雑な気持ちになりました。
人生の大部分を、お寺で生
活した長い時間を思うとき、
それとは反対に、「あっ」と
いう間とも思えるほどに短い
時間でもあったようにも感じ
られます。

半世紀ちかくの長い年月に
は、自然災害、人とのかわ
りの難しさ等、いろいろなこ
とがありました。（きつと私
だけのことでは無いでしょう）
特に東日本大震災では、未
曾有の大地震、津波に見舞
われ、多くの方々が被災され
尊い命さえも奪われました。
その辛苦は、いかばかりだっ
たことでしょう。それでも、
やがて、瓦礫の中から、復興
のかけ声と共に立ち上がりま
した。その姿には、私も勇気
付けられました。

辛いことばかりではありま
せん。うれしいこと、楽しい
ことの方が、たくさんありま
した。全部が私にとって貴重
な体験となつて居ります。

それにつけても、私は人に
褒められる事をして来たかなあ、
人に誇れることもないのになあ、
不安、不満が募ります。どう
生きれば良かったかなあと、
自問自答をくり返すばかりで
す。それがありのままの私で
す。



人生の折り返し地点を、と
うに過ぎました。さまざま
しがらみの整理、断捨離をと
思うのですが、これが又一向
に進みません。

まだまだ「これから、これ
から」と考える私もここには
居ます。もつと楽しいことを、
美味しいものを、美しいもの
をと、まだまだ未練たっぷり
の、悟り切れない私でもあり

ます。これでは、私の傍でい
つも見守ってくださる和尚様
が一番大変なのではないでしょ
うか。

それでも、残り少なくなつ
た時間を大切に共に全うした
いと思います。

表彰をいただいて、たくさ
んのことを考える良い機会と
なりました。ありがとうございました。
合掌

令和五年度

曹洞宗宮城県宗務所寺族 表彰者名簿

☆昭和二十三年一月一日〜昭和二十三年十二月三十一日生まれのお寺族
☆右記以前生まれのお寺族（敬称略）

教区	寺 院 名	氏 名
6	常照寺	石川 千恵子
7	昌源寺	高橋 律子
8	弥勒寺	武藤 とし子
8	圓幢院	永濱 いそみ
8	香林寺	千葉 千恵
12	延命寺	齋藤 厚子
12	龍澤寺	山脇 糸美
14	大龍寺	千田 まさよ
14	東陽寺	湖田 元子
15	福田寺	橘 明子
15	徳性寺	辻 さとゑ

（曹洞宗宮城県宗務所褒賞規程第一条第二項該当者）

寺族表彰を受けて

第十五教区 福田寺寺族 橘 明子



この度寺族
表彰を頂き、
誠に感謝申し
上げます。お

寺に嫁ぎ、五年間で老憎と義母を見送りました。その間長女・次女の出産、住職は農協勤務をしながらの壇務で、休日返上の日々でした。その後、三女を授かり、子育てと寺の生活の中で、多忙ながらも楽しく過ごさせて頂きました。平成四年、庫裏の建設には檀家皆様より快く協力を頂き、感謝致しております。子育ても一段落し、教区寺族会会長を仰せつかり、本部の理事として、大変勉強をさせ

て頂きました。その時の県寺族会会長様や役員の方々とはその後も交流があり、良い思い出となりました。

東日本大震災には本当に今でも心が痛む思いで御座居ます。そして世界に流行し、今だ収束しないコロナ感染症・ロシアとウクライナの戦争等、世の中の変化を感じております。

住職は現在東堂となり、住職は次の世代に引き継がれました。

令和七年の晋山式を控え、今は準備段階というところで、振り向けば五十年、この表彰を機に、寺族としてのあ

り方を再確認し、少しでも寺に貢献できたらと思います。

沢山の方々の支えに感謝しつつ、宗務所、そして県寺族会の更なる御発展と皆様の御健康をお祈り申し上げます。本当に有難う御座いました。

合掌



－新理事の方々－

梅花流詠讃歌を

始めてみませんか

曹洞宗の梅花流詠讃歌は、み教えと宗旨に沿った歌詞にのせてお唱えします。初めての方でも、講師の先生方が懇切丁寧にやさしくご指導くださいます。お仲間は、県内の御寺院様から集まりますので交流も楽しみです。

お寺に梅花講がある無しにかかわらず、この機会に養成所にお入りになります。

尚、県内御寺院様には改めて宗務所より指導者養成所参加募集のご案内がありますのでご希望の方は、詳細をご覧の上お申し込み下さい。

記

一、期間

令和六年四月～

令和八年三月

年十回

(二ヶ年二十回で初級終了、上級も同様)

二、会費

年会費 三万円 (予定)

寺族物故者供養

義母の生涯を 偲んで

第二十二教区 満興寺寺族
時 英津子



義母は、大正生まれで仙台の街中で育ち、「工芸指導所」で国家公務員として勤務するバリバリのキャリアウーマンだったようです。日本の工芸産業の発展を図る国立の職場には全国から工芸作家や美術家が集い、お茶の時間を「リプトン会」と名付けて皆で紅茶を飲みクッキーを食べながら輸入雑誌のウォークを見たリ、工芸作品の評価をしあっていたそうです。太平洋戦争前、平穏だった昭和初期の時代を懐かしそうに語っておいしました。

終戦後、縁あって嫁いでき

た満興寺。当時は茅葺き屋根で土間の台所、お風呂は五衛門風呂で、薪割りが大変だったそうです。

間もなくして、満興寺梅花講を開き、講員さんと共に御詠歌を学び始めました。

住職は教員の仕事も兼ねており、忙しい日々を送っていた、そんな折、突然体調を崩し、帰らぬ人となってしまいました。三人の子供を抱え、どんなに不安だったことでしょう。長男（現住職）は中学二年生でした。

そんな時、宗務所からは「特定代務者」の制度を教えて頂いたり、近隣の御寺院様には親身になって支えて頂いたりして本当に有難かったと申しておりました。檀家さんからは「法事の時は見知らぬ和尚さんよりも、おばさん（義母）に来てもらいたい。」と言われ、梅花服に格子の姿でご供養させて頂いた、という話も聞きました。無我夢中で暮らす日々の中で、御詠歌が心の支えだったそうです。

長男が修業を終えて住職になつてからは、梅花流全国大会の参加や、檀家さん達との本山参拝、そして中国やタイの仏蹟めぐりの旅に出かけるなど、楽しく穏やかな日々を過ごしておりました。

晩年は、毎年お正月に親戚達が勢揃いするのを楽しみにして、孫やひ孫達に囲まれ、賑やかに会食していた義母の笑顔が忘れられません。たくさんさんの思い出を残し、

昨年六月二十九日、義母は静かに旅立って行きました。享年百一歳でした。

大正・昭和・平成・令和と変わりゆく時代の中で、たくさんさんの苦勞を乗り越え、精一杯生き抜いた義母。

どうぞ安らかに…と心から願います。

参加が叶わず残念でしたが、五月の寺族会総会にて物故者供養を行なって頂きありがとうございました。合掌

謹んで御冥福をお祈り申し上げます

令和四年四月一日〜令和五年三月三十一日御逝去

(敬称略)

教区	寺院名	氏名	死亡年月日
10	玄松院	三浦 さわ子	令和四年五月二日
1	宗禪寺	岩井 幸	令和四年五月十三日
21	満興寺	時 仁子	令和四年六月二十九日
13	多福院	三輪 榮子	令和四年七月一日
10	陽山寺	吉田 徳恵	令和四年七月二十三日
13	金蔵寺	渡邊 静枝	令和四年七月二十六日
2	全玖院	宇野 龍子	令和四年八月八日
21	彌勒寺	石川 よう子	令和四年九月二日
20	実相寺	菅原 恵子	令和四年十月十三日
13	松巖寺	永井 たみ子	令和五年二月八日
1	耕田寺	菅生 はしめ	令和五年二月十五日

当該者寺院からのお申し出により、掲載されていない物故者の方もいらっしゃる

曹洞宗宗務庁主催 令和5年度 曹洞宗寺族中央集会



期 日 令和5年9月26日～27日
会 場 曹洞宗宗務庁
参加者 第20教区 松窓寺寺族 森 理恵



九月二十六・二十七日、曹洞宗宗務庁に参加者六十三名が一堂に会し、四年ぶりの寺族中央集会が開催されました。

コロナ前は両本山のどちらかで、一宗務所から二名ずつ参加で開催されていました。コロナ五類移行後の今回は、様々な観点から会場は宗務庁・東京グランドホテルにて、一宗務所から一名ずつ参加になったと開会の時にお話がありました。

基調講演は、曹洞宗総合研究センター常任研究員 宇野全智師による「禅の教えとSDGs—智慧と慈悲の実践として—」という演題でした。

SDGsとは二〇一五年に国



連加盟国一九三ヶ国と地域の全会一致で採択された、持続可能な社会を実現するためのグローバル目標で、三十年 五十年百年後の子どもたちも自然と調和した豊かな、しっかり暮せる世界をつくるための十七の大きな目標とそれらを達成するための具体的な一六九のターゲットで構成されています。大事なポイントは何一人置き去りにしない、苦しんでいる子どもたちを最優先に考え行動すること。

ヨーロッパで行われた「ユニクロのTシャツ」という社会実験の動画を見せていただきました。二ユーロでTシャツが買える自販機にお金を入れると十三セント（約十三円）で一日十六時間の労働環境の下、Tシャツが作られている動画が流れ、最後にそれでも買いますか？購入する、寄付するのボタンが現れ、みんな寄付するボタンを押していました。見た人はTシャツの安さの背景を知り、知ることによって心が動き、価値観の変化によって行動が変わ



る。それは世界の実情を正しく知ることで身近な視点で私たち一人一人に出来ることが見えてきます。

出来る社会の活動のための活動として「私生活の仏道修業」として信仰実践とし、実践を通じて、ともに仏になるという信仰に生きる。自分の行っていること、言っていること、考えていることを振り返り、今日の自分は仏らしい顔つきで生活できたろうかと反省すること、物事を正しく見える力、自分の心の中にある優しさが込み出てくると先生は仰っていました。

未来の子どもたちが安心して平和に過ごせるよう今から私に何が出来るのか考えるきっかけになる貴重な講演でした。

一泊二日を通しての班別会では他県の寺族の方々それぞれの県の寺族会の活動やお寺の実情など意見交換、楽しい交流が出来ました。最後に寺族中央集会に参加させていただき、ありがとうございました。

令和五年度第一回学習会

「学んでみよう ～ 身近なお経 ～」

令和五年十月十九日
宗務所において

「学んでみよう ～ 身近なお経 ～」

講師 教化センター布教師

耕徳寺 長谷川 俊 昭 師

令和五年十月十九日曹洞宗宮城県宗務所研修所にて、「令和五年度第一回学習会」が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の五類移行に伴い、久しぶりに一同に会しての学習会となりました。

講師には教化センター布教師であられる石巻耕徳寺ご住職長谷川俊昭老師をお迎えし、「学んでみませんか ～ 身近なお経について ～」という演題でご講義を頂きました。



「令和五年度第一回学習会」に

参加して

第一教区 鉤取寺寺族 都 築 梨 香

内容は「お経とは何か」から始まり、「曹洞宗で日常用いられるお経について」「四弘誓願の写経」「曹洞宗の教義」でした。

講義の途中には「ご老師のお言葉であるご寺族様とのエピソード話等お話頂き、難しいお話ばかりではなく楽しく拝聴させて頂きました。

講義資料でご用意頂きました中の「曹洞宗で読むお経」のプリントには、葬儀や法要等で読まれる代表的なお経が簡潔に書かれていてとても勉強になりました。今回ご参加頂けなかったご寺族様方にもお渡し出来ればいいなあと思

いました。

写経は「般若心経」ではなく「四弘誓願」でしたので、短時間でこなす事が出来ました。「四弘誓願」の写経でしたら日常生活のちょっとした時間で出来そうですし、お檀家さんにもお勧めしやすいと思います。「写経」というと少し身構えてしまいましたが、初めての写経だったし短時間で出来る気分転換の方法としてご紹介出来ると思いました。

今回の学習会で学んだ事を今後の生活に活かしていきたいと思っています。

お忙しい中、沢山の資料等のご用意やわかりやすく講義して頂きました長谷川老師として今回の学習会を企画しご準備頂きました県寺族会役員の皆様に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

合掌

学習会

第十四教区 長照寺寺族 齋藤 文枝



令和五年度第一回学習会は五十名の参加で長く続いたコロナ禍と災害級の猛暑を忘れるほど、穏やかな秋晴れの中開催され、講師に教化センター布教師長谷川俊昭老師をお迎えし「学んでみませんか？身近なお経」と題してお話をいただきました。

はじめに、お経とはお釈迦様の言葉・教え・真理を語った言葉で、文字や意味に囚われず、偏らず、心で読み、体で読むこと（只管打坐）である。般若心経は、なるべく疊ったフィルター



先生は、門前の小僧習わぬ經を読むが如くにお経を覚えたこと、「おかげさま」が口癖の陽気なお祖母様は、住職になられながらも挨拶・早起き・掃除・



「ご飯の食へ方、さらには仏様に届くようなお経を読むよう諭してくれたなど、微笑ましいエピソードを涙あり笑いありでお話頂きました。

世界各地で戦争が起きている不安定な時代だからこそ、「お寺に来てお経を聞くと安らぐ」などの声が聞かれるようなお寺作りの大切さを学びました。今この時にこの学習の機会を持てたことは、私にとって意義深いものとなりました。有り難うございました。



合掌

宗務所新役職員紹介



第二十一教區
活牛寺住職
菅原 一芳



第七教区
善盛寺住職
根來 浩之



第十教区
興安寺住職
熊本 淳法



第十九教区
普門寺副住職
坂野 太俊

(書記)



第四教區
慶雲院住職
清水 大伸

（梅花主事）



第五教区
保昌寺住職
水澤 智孝

庶務主事



第四教区
東禪寺住職
三宅 俊乗

（教化主事）



第二教区
壽德寺住職
熊谷 晴生

(副所長兼人權主事)

令和 5・6 年度寺族会役員紹介

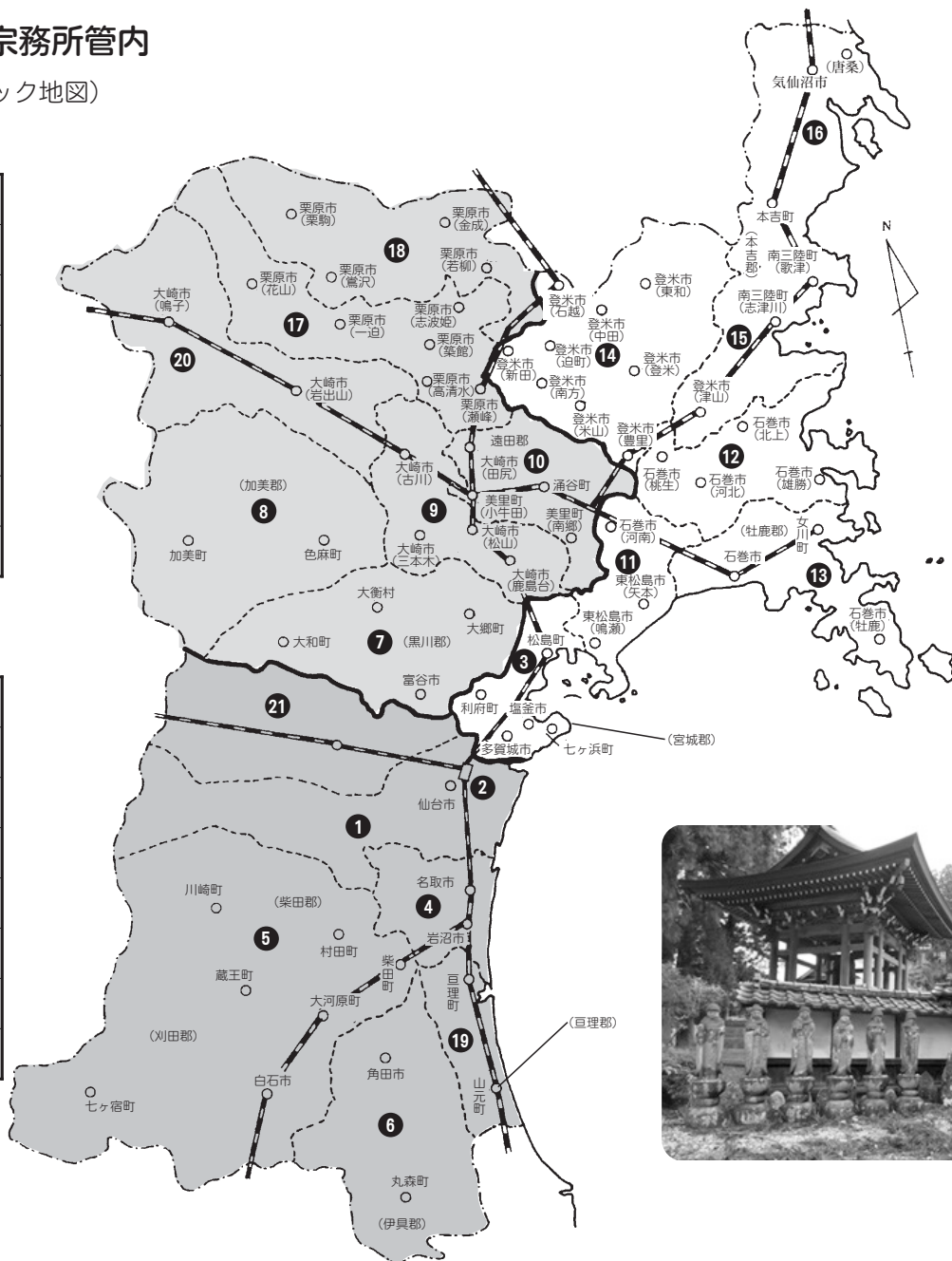
教区	役 職	寺院名	氏 名	ブロック	教区	役 職	寺院名	氏 名	ブロック
16	会 長	興福寺	須 田 祐 子	3	11		観 音 寺	齋 藤 江身子	3
1		鉤取寺	都 築 梨 香	1	12	副 会 長	海蔵庵	佐 竹 広 美	3
2		妙心院	葦 名 道 子	1	13		大永寺	武 田 美知子	3
3	編集委員	福定寺	山 田 和 歌	3	14		長照寺	齋 藤 文 枝	3
4	副 会 長	東岩寺	田 村 由 美	1	15		長観寺	小 松 豊 実	3
5	会 計	洞昌寺	奥 野 直 子	1	17	編集委員	光岳寺	岩 崎 利 香	2
6		西圓寺	石 龍 裕 子	1	18	副 会 長	柳徳寺	莊 司 史 子	2
7	編集委員	雲泉寺	坪 内 幸 子	2	19	編集委員	鳳仙寺	内 山 仁 省	1
8		正来院	小野崎 美 恵	2	20	庶 務	松窓寺	森 理 恵	2
9		龍洞院	工 藤 玲 子	2	21		興源寺	佐 藤 秀 子	1
10		西林寺	佐 藤 松 江	2					

宮城県宗務所管内

(ブロック地図)

2ブロック
7教区
8教区
9教区
10教区
17教区
18教区
20教区

1ブロック
1教区
2教区
4教区
5教区
6教区
19教区
21教区



3ブロック
3教区
11教区
12教区
13教区
14教区
15教区
16教区



教 区 だ よ り

〔第6教区・第18教区〕



交流を大切に

第十八教区 洞松院寺族

小柳 明子

第十八教区は、栗原市の若柳、金成、栗駒、鶯沢地域の二十八ヶ寺で構成されており、寺族会の会員数は二十ヶ寺、二十九名となっております。

例年、毎年初めに総会、二月に新年会、その他、梅花流詠賛歌の勉強会、茶道や精進料理の勉強会、移動研修等の企画をし、



どうするべしこれから

第六教区 西園寺寺族

石龍 裕子

第六教区寺族会は角田市と丸森町にある十二ヶ寺で活動しております。

毎年四月に総会、年二回程食事会や研修会を行っております。平成二十九年からは先輩寺族様の勧めにより、副住職の妻にて構成される「ヤング寺族会」の活動も始まりました。まだ食事

会のみ活動ですが、お寺の仕事の話など同じ環境でないと解らないような話ができる貴重な会となっております。

令和元年十月の台風十九号による豪雨災害があり、復旧復興の兆しが見えないまま、新型コロナウイルスによる閉塞された日々により、これまで活動してきたことをすべて中止せざるをえなくなりました。

本年五月の感染症五類引き下げに合わせ、四月末に四年ぶりとなる総会を行いました。当日は全会員が集まり、久しぶりに

会えたことと、人と交流できる嬉しさで会が長くなってしまうことは皆様に想像していただけることと存じます。

長いコロナ禍を経て、会員の置かれている状況の変化もあり、無くて当たり前になっていた行事を復活させることは容易ではありませんが、寺族の資質向上と寺族相互の連携を密にするため、他教区様の活動なども参考にさせて頂いたなかから創意工夫し、会長を中心に手を携えて活動して参りたいと存じます。

合掌

活動をしておりましたが、新型コロナウイルスの流行に伴い、当教区でも活動を自粛し、書面でのやり取りのみで、約三年間活動の機会が持てずにおりました。

今年度も総会は書面で行いましたが、五類移行後は勉強会等も再開しましょうということになり、九月に梅花流詠賛歌の勉強会を開催することができました。

少人数での開催となりましたが、楽しく勉強した後は、美味しいお食事を頂き、実際に顔

を合わせての集まりは、お話も盛り上がり、有意義な情報交換も出来るので、交流の機会を作る大切さを感じました。

また、今年度は曹洞宗宮城県青年会のチャリティーバザーが当教区で開催され、寺族会もお手伝いをする機会を頂きました。貴重な経験をさせて頂き、大変有難いことでした。

少しずつ日常が戻りつつある中で、今後も関係なく、楽しい行事を通して、寺族会同士の交流を深めて参りたいと思います。

合掌

各 教 区 の 写 真



1 教区
石巻女川方面



19教区
山元町「震災遺構中浜小学校」見学



20教区
研修会（塩釜・松島方面）



12教区 学習会「寺院の防犯並びに特殊詐欺等」について



3 教区 慈恩寺参拝・山形市内めぐり



17教区 総会



16教区
高齢者・児童養護施設訪問



5 教区
日光東照宮と輪王寺参拝



18教区 御詠歌勉強会後のランチ



18教区
青年会主催チャリティーバザー
協力・参加



21教区
研修会 ガラス体験
(ガラス工房「尚」にて)



令和 5 年度 各教区の行事

(各教区共通の総会、役員会等は省略 ○の数字は月を表す)

教 区	行 事
1 教区	⑨教区学習会（人権学習） ⑪研修会（石巻女川方面） ⑫ 3 教区合同研修会
2 教区	⑫親睦会 ロイヤルパークホテル仙台 ⑫ 3 教区合同研修会
3 教区	⑪研修会（慈恩寺参拝・山形市内めぐり） ⑫禅をきく会・懇親会
4 教区	⑥禅をきく会 ⑪忘年会 ⑫新年会
5 教区	③柴田三十三観音巡り ⑨日光東照宮と輪王寺参拝
6 教区	⑤東北歴史博物館
7 教区	⑫研修会・忘年会 ⑫新年会
8 教区	⑫新年会
9 教区	⑪大谷資料館・あしかがフラワーパーク ⑫新年会
10教区	⑪忘年会 ⑫禅をきく会・新年会
11教区	④研修会（法話・人権学習） ⑫忘年会
12教区	⑦学習会「寺院の防犯並びに特殊詐欺等」について ⑩教区仏教講演会
13教区	⑫新年会
14教区	⑫研修会（石巻）
15教区	⑥研修会（山形方面） ⑪茶道 ⑫忘年会 ⑫新年会
16教区	⑦研修会（教区内） ⑥・⑧禅をきく会 ⑪高齢者・児童養護施設訪問 ⑫新年会
17教区	⑧禅をきく会とランチ ⑨教区人権学習会 ⑪新年会
18教区	⑨御詠歌勉強会 ⑨青年会主催チャリティーバザー協力・参加 ⑫新年会
19教区	⑨SVA「絵本を届ける運動」 ⑩研修会（山元町「震災遺構中浜小学校」） ⑪新年会
20教区	⑦研修会（塩釜・松島方面）・瀬戸内寂聴展 ⑪忘年会
21教区	⑤東北歴史博物館 ⑪研修会（ガラス体験 秋保） ⑫ 3 教区合同研修会



令和五年度 宮城県宗務所寺族会総会 並びに 寺族宗務所集会・研修会
2023年5月9日 於 錦ヶ丘アーリー迎賓館

事務局だより

○第二回学習会

令和六年二月十四日(水) — 宗務所 —

○令和六年度寺族会総会・集会

令和六年五月十四日(火) — 錦ヶ丘アーリー迎賓館 —

曹洞宗宮城県宗務所寺族会 創立四十周年記念式典

○寺族会創立四十周年記念本山研修旅行

大本山總持寺太祖瑩山禅師七〇〇回大遠忌

令和六年六月二十日(木)～二十一日(金)

○第五回曹洞宗東北管区研修会

令和六年九月三日(火)～四日(水)

— 秋田県秋田市「秋田キャッスルホテル」 —

編集後記

新型コロナウイルス感染症移行後、様々なイベントや社会活動がコロナ以前に戻りつつある中で、各教区の寺族会におきましても通常運営に戻していこうとすめて来られたと思います。今回の会報の誌面の中で、各教区の行事を紹介するページには、研修会や懇親会など多くの写真や情報をお寄せ下さりありがとうございました。又、原稿依頼にも快くお引き受け下さり、ご協力頂きました事に感謝申し上げます。

編集委員一同

